令和８年１１月１５日

ＳＲトピックス　　ＶＯＬ．４２１

望月社会保険労務士事務所　　e-mail　info@mo-mochizuki.com
代表・特定社会保険労務士　望月　正也　　tel 029-875-4326　fax 029-875-4371

今日は１１月１５日、そうです七五三の日です。昨日の午前中までは晴れていたのに午後になると曇りになり今日は朝から冷たい雨、晴れてくれれば絶好の記念写真日だったのに、今日を楽しみにしていたご両親は残念ですね。でも、天気はどうあれご自分の可愛いお子様の晴れの日ですから、食事とかを大いに楽しんでください。今は天気予報が２週間くらい先までわかりますから、記念写真は先週の土・日曜日にでも撮られたのかもしれませんね。

高齢者の就業状況～総務省「統計からみた我が国の高齢者」より

１．総人口に占める６５歳以上の割合は２９．６％で過去最高

総務省は９月２０日、統計からみた我が国の高齢者のすがたについて取りまとめ、公表しました。これは毎年、敬老の日に合わせて公表されているもので、統計をもとに高齢者の人口や高齢者の就業の状況についてまとめられています。

人口推計（９月１５日時点）による６５歳以上の高齢者の人口は３，６２４万人（前年比２万人増）で、総人口に占める割合は２９．６％と、過去最高を更新しました。

２．６５歳以上の就業者数は９４３万人で過去最多

また、労働力調査による２０２５年の６５歳以上の就業者数は２２年連続の増加で、９４３万人となり、こちらも過去最多でした。６５歳以上の就業者の割合も１３．８％と過去最高で、就業者のおよそ７人に１人が６５歳以上となる計算です。

就業率は６５～６９歳が５４．５％、７０～７４歳が３６．２％、７５歳以上は１２．６％で、いずれも過去最高となっています。

また、主要国の６５歳以上の就業率は、韓国３９．５％、日本２６％、アメリカ１８．４％、カナダ１４．６％、イギリス１２．７％、ドイツ１０．２％、イタリア６．１％、フランス４．２％で、韓国に次いで日本が高くなっています。

１０年前と比較すると、韓国（＋９．１％）、日本（＋４．３％）、ドイツ（＋４．２％）、イギリス（＋２．４％）、イタリア（＋２．３％）、カナダ（＋１．９％）、フランス（＋１．６％）アメリカ（＋０．２％）ンスを始め、各国とも上昇しています。アメリカの伸びが低いのが意外です。

３．雇用形態別・年齢階級別の割合

６５歳以上の就業者を雇用形態別・年齢階級別にみると、正規の職員・従業員数は、６５～６９歳が７６万人（１０年前に比べ１５万人増）、７０～７４歳が３７万人（同１６万人増）、７５歳以上が２７万人（同１５万人増）となっており、非正規の職員・従業員数は、６５～６９歳が２１３万人（同３２万人増）、７０～７４歳が１４２万人（同７６万人増）、７５歳以上が９１万人（同７１万人増）となっており、１０年前と比べると７０歳以上の非正規の従業員の増加が顕著です。

４．労働者の高齢化を見据えた対策を

労働者の高齢化は、今後も進行していくことが予想されます。雇用管理の面からも、高齢者の増加を見据えた対策がますます必要になってくると考えられますので、高年齢労働者の健康確保措置も忘れずに進めていきたいですね。

【参考】
総務省統計局「統計からみた我が国の高齢者－「敬老の日」にちなんで」
https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1490.html